



きもつきの デジタル ビジョン

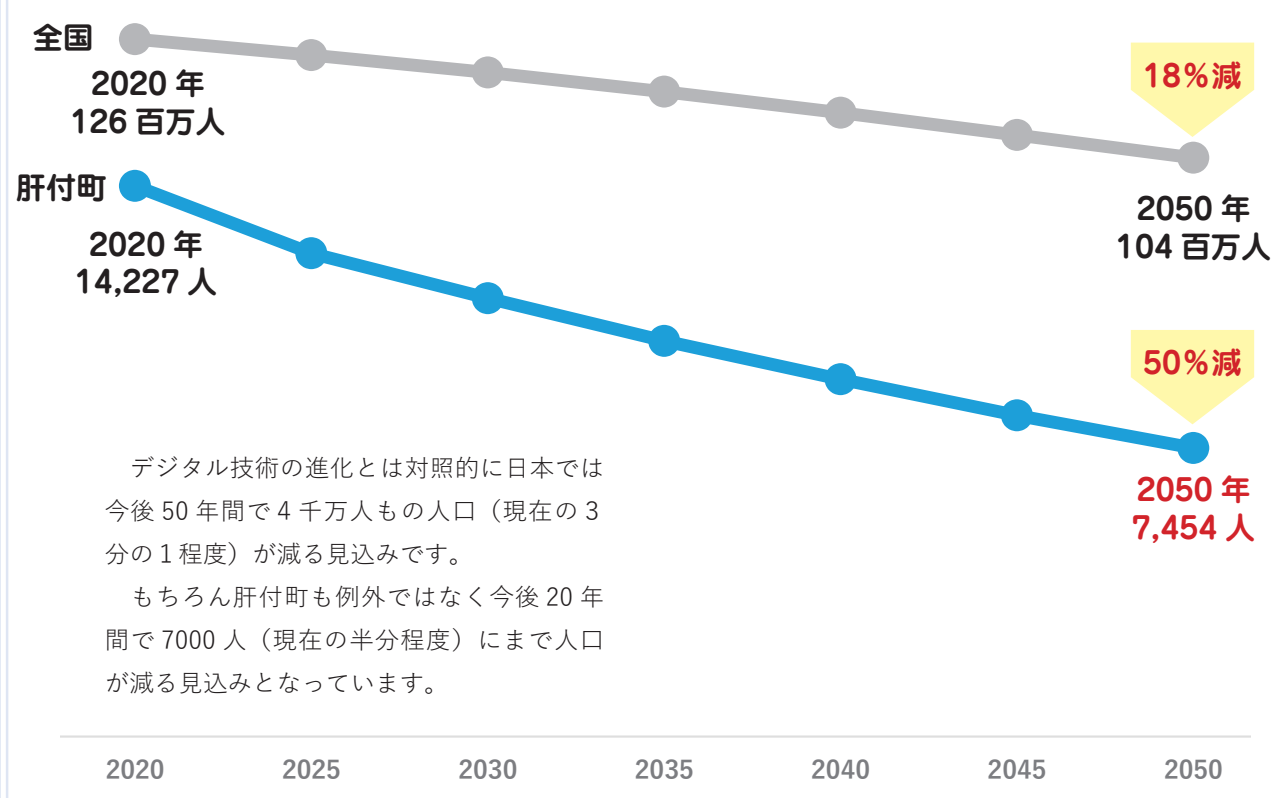
ニュースや新聞などで毎日のようにデジタル技術が話題になっています。写真や音楽、ビデオやゲーム、買い物や旅行など生活に必要なコトやモノがスマートフォンひとつでできるようになり、ソーシャルメディア（SNS）など新しいメディアで世の中の動きを知ることも多くなりました。

また子どもたちはひとり一台のパソコンとインターネットを使ってみんなですんでいます。

これまでは人間が指示することで動いていたコンピューターは、人間と同じように自ら学び意思決定をする人工知能として早ければ2025年にも登場するとも言われています。

このように私たちの生活にデジタル技術は浸透しており、私たちは意識することなくその恩恵を受けています。

総人口の推移



デジタル技術の進化とは対照的に日本では今後50年間で4千万人も人口（現在の3分の1程度）が減る見込みです。

もちろん肝付町も例外ではなく今後20年間で7000人（現在の半分程度）にまで人口が減る見込みとなっています。

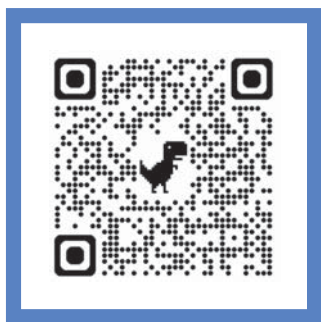
資料：国立社会保障・人口問題研究所による推計値

きもつきの デジタルビジョン とは

肝付町では、これまで「肝付町地域情報化基本計画」に基づいて各種情報施策を展開してきました。しかし、その間にデジタル技術は指数関数的に発展するのに加え、社会情勢の変化は目まぐるしく、施策はすぐに陳腐化しその都度見直すことが求められるようになりました。

この様に先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代に対応すべく、「きもつきのデジタルビジョン」を策定し、町全体としてデジタル技術を積極的に利用して肝付町を持続的なものにするための全体的な方針を定めました。





▲町ホームページ
「デジタルビジョン 2024-2030」

「きもつきのデジタルビジョン」では、住民のみなさんがデジタルについて知り、ひとが多かった時代の当たり前を見直すことで、これからの町を創り上げていくための方針と必要な取り組みを掲載していますのでぜひご覧ください。

人口が減り、社会の規模は小さくなる一方でデジタル技術がますます進化するこれからの時代には、町としてデジタル技術も上手く使った新しい地域社会の在り方を模索する必要があると思います。その方向性を示したものが「きもつきのデジタルビジョン」です。

ビジョンの策定に関わった有識者からのコメント

「これからもっと人が減るまちだからこそ、声の大きい人ばかりではなく、みんなの意見と地域への関わりが必要です」「ひとは減るけど、技術は進化する」「時代の流れとともに「まち」も変化していく必要があります」「地域のことは地域のひとが変えていくという覚悟で取り組みます」「これまでの「当たり前」を変えよう！」。デジタルビジョンの中に書かれている、私が好きな言葉を並べてみました。こうした思いを共有し、明るく、前向きに、各自ができることをやっていきましょう。一緒にできることもやっていきましょう。デジタルは私たちを後押ししてくれます。大変な時代ではありますが、きもつきの未来はきっとポジティブです。



庄司昌彦さん／武蔵大学社会学部メディア社会学科教授



社会や生活の当たり前が変わる時、それらを前向きに乗り越えるには知恵が必要です。かつては人的な資源は問われず、情報は中央集権的な行政機構やメディアに頼れば事足りた時代は終わり、人口減少に伴う深刻な過疎や真偽不明の情報過多と向き合っていかなければなりません。この街とかかわり、よりよい暮らしをつくるために、デジタル技術は不可欠な基盤となり、それらを賢く扱うデジタル・シティズンシップの意義は一層高まるでしょう。

豊福晋平さん／国際大学GLOCOM主幹研究員・准教授

イベントのお知らせ

まちとデジタルを考え、まちとデジタルを楽しむイベントを開催します！

だいじなデジタルのはなし.vol.2 観覧無料

きもつき デジタルな日

2025年2月22日(土)

時間 13:00～ 会場 肝付町文化センター

デジタルと“つくる”地域のはなし。

主催：NPO法人きもつき情報化推進センター

お問い合わせ先 肝付町役場 デジタル推進課 ☎ 0994(65)2513